

【復習用問題 2】

さいころを続けて投げて、数直線上の点 P を移動させるゲームを行う。初め点 P は原点 0 にいる。さいころを投げるたびに、出た目の数だけ、点 P を現在の位置から正の向きに移動させる。

この試行を続けて行い、点 P が 10 に達するか越えた時点でゲームを終了する。n 回目の試行でゲームが終了する確率を p_n とする。

(1) $p_{10} = \left(\frac{1}{6}\right)^9$ であることを示せ。

(2) p_9 の値を求めよ。

(3) p_3 の値を求めよ。

< '17 北海道大 >

【戦略】

k 回目に出た目の数を a_k , k 回目の試行を終えたときの点 P の座標を x_k としておきます。

$x_k = a_1 + a_2 + \dots + a_k \geq k$ なので、k 回サイコロを振ったら最低でも座標 k の位置にはいるわけです。

(1) は 9 回振ったら 9 以上の場所にいることになります。

つまり、そもそも 10 回目の試行があり得るためには

$$9 \text{ 回目に座標 } 9 \text{ の位置にいる}$$

が必要になるわけで、それはすなわち 1 回目から 9 回目まで全部 1 が出るということになります。

(2) は $x_8 \geq 8$ であることを考えると、9 回目の試行が行われるためには

$$x_8 = 8 \text{ または } 9$$

となるしかありません。

$x_8 = 8$ は 1 回目から 8 回目まですべて 1 が出るという厳しい条件です。

$x_8 = 9$ は 1 回目から 8 回目まで基本的には 1 が出るが

「1 回だけ 2 の目が出ることも許される」

という条件です。(許されるというか 1 回は出なきゃダメです。)

(3) は、 (a_1, a_2, a_3) を決めるにあたり、単純に数字を決めて並べ替えるというわけにもいきません。

例えば $a_1 + a_2 + a_3 = 15$ となる場合

$$6 + 6 + 3 \text{ (の並べ替え)}, 6 + 5 + 4 \text{ (の並べ替え)}, 5 + 5 + 5$$

が考えられて、 $\frac{3!}{2!} + 3! + 1 = 10$ 【通り】とやることができません。

なぜなら、 $(a_1, a_2, a_3) = (6, 6, 3)$ は $a_1 + a_2$ の時点で 10 を超えておりゲームが終わってしまっているからです。

もちろん、その他の $(5, 5, 5)$ など 2 回目の段階でゲームは終了してしまっています。

$$\text{つまり } \begin{cases} 4 \leq a_1 + a_2 \leq 9 & (\leftarrow 4 \text{ 以上でない} \rightarrow 3 \text{ 回目に終われません}) \\ a_1 + a_2 + a_3 \geq 10 \end{cases}$$

という条件を考える必要があるわけです。

この処理については $a_1 + a_2 = k$ などと固定して、 a_3 の決め方を考えていきます。

【解答】

k 回目に出た目の数を a_k とする。

k 回目の試行を終えたときの点 P の座標を x_k とする。

(1) $x_9 = a_1 + a_2 + \dots + a_9 \geq 1 + 1 + \dots + 1 = 9$

等号成立は $a_1 = a_2 = \dots = a_9 = 1$ のときに限る。

つまり、 a_1, a_2, \dots, a_9 の中に 2 以上の数があると等号が成立しないため、 $x_9 \geq 10$ となってしまう、10 回目の試行前にこのゲームが終了してしまう。

よって、

$$(a_1, a_2, \dots, a_{10}) = (1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, m) \\ (m \text{ は } 1, 2, 3, 4, 5, 6 \text{ の何でもよい})$$

となる確率が p_{10} であり、 $p_{10} = \left(\frac{1}{6}\right)^9$ である。

(2) $x_8 = a_1 + a_2 + \dots + a_8 \geq 8$

(i) $x_8 = 8$ のとき

こうなる確率は $a_1 \sim a_8$ が全て 1 となる確率で $\left(\frac{1}{6}\right)^8$

このとき、 a_9 は 2 以上であればよく、その確率は $\frac{5}{6}$

よって、ゲームが終了する確率は $\left(\frac{1}{6}\right)^8 \cdot \frac{5}{6} = \frac{5}{6^9}$

(ii) $x_8 = 9$ のとき

こうなる確率は $a_1 \sim a_8$ のうちどれか 1 つが 2 となり、

残りは全て 1 となる確率で、 $\left(\frac{1}{6}\right)^8 \cdot 8$

このとき、9 回目の目 a_9 は何でもよい。

よってゲームが終了する確率は $\left(\frac{1}{6}\right)^8 \cdot 8 \cdot 1 = \frac{8}{6^8}$

以上 (i), (ii) から $p_9 = \frac{5}{6^9} + \frac{8}{6^8} = \frac{53}{6^9} \dots \text{㊦}$

$$(3) \begin{cases} 4 \leq a_1 + a_2 \leq 9 & \dots \textcircled{1} \\ a_1 + a_2 + a_3 \geq 10 & \dots \textcircled{2} \end{cases} \text{となるような } (a_1, a_2, a_3) \text{ の決め方を}$$

求める。

$a_1 + a_2 = k$ ($k = 4, 5, \dots, 9$) と固定する。

このとき、 $\textcircled{2}$ から $k + a_3 \geq 10$

$a_3 \leq 6$ も考えると、 $10 - k \leq a_3 \leq 6$

これを満たす a_3 の決め方は $6 - (10 - k) + 1 = k - 3$ 【通り】

$k = 4$ のとき

$(a_1, a_2) = (1, 3), (2, 2), (3, 1)$ で、 a_3 の決め方は 1 通り

$k = 5$ のとき

$(a_1, a_2) = (1, 4), (2, 3), (3, 2), (4, 1)$ で、 a_3 の決め方は 2 通り

$k = 6$ のとき

$(a_1, a_2) = (1, 5), (2, 4), (3, 3), (4, 2), (5, 1)$ で、
 a_3 の決め方は 3 通り

$k = 7$ のとき

$(a_1, a_2) = (1, 6), (2, 5), (3, 4), (4, 3), (5, 2), (6, 1)$ で、
 a_3 の決め方は 4 通り

$k = 8$ のとき

$(a_1, a_2) = (2, 6), (3, 5), (4, 4), (5, 3), (6, 2)$ で、
 a_3 の決め方は 5 通り

$k = 9$ のとき

$(a_1, a_2) = (3, 6), (4, 5), (5, 4), (6, 3)$ で、 a_3 の決め方は 6 通り

以上から (a_1, a_2, a_3) の決め方は

$$3 \cdot 1 + 4 \cdot 2 + 5 \cdot 3 + 6 \cdot 4 + 5 \cdot 5 + 4 \cdot 6 = 99 \text{ 【通り】}$$

ゆえに、 $p_3 = \frac{99}{6^3} = \frac{11}{24} \dots \textcircled{\text{答}}$

【復習用問題2 総括】

同じ双六でも少しルールを変えただけで全然勝手が違いますね。

(3) は余事象などを考えても事故る可能性が高いでしょう。

「3 回目で試行が終了する」の余事象は単純に $x_3 \leq 9$ ではなく

「3 回目の試行が行われ、 $x_3 \leq 9$ 」

または

3 回目の試行が行われない

ということになります。

この方針でもやってみましたが、一応できなくはありませんでした。

「3 回目の試行が行われ、 $x_3 \leq 9$ 」となる (a_1, a_2, a_3) としては

$(1, 1, 1), (1, 1, 2), (1, 1, 3), (1, 2, 2), (1, 1, 4), (1, 2, 3),$
 $(2, 2, 2), (1, 1, 5), (1, 2, 4), (1, 3, 3), (2, 2, 3), (1, 1, 6),$
 $(1, 2, 5), (1, 3, 4), (2, 2, 4), (2, 3, 3), (1, 2, 6), (1, 3, 5),$
 $(1, 4, 4), (2, 2, 5), (2, 3, 4), (3, 3, 3)$

の並べ替えの数だけ決め方があります。

$(1, 1, 1), (2, 2, 2), (3, 3, 3)$ の並べ替え方は 1 通りです。

$(\circ, \circ, \triangle)$ や $(\circ, \triangle, \triangle)$ のタイプは $\frac{3!}{2!} = 3$ 通りの並べ方があり

$(\circ, \triangle, \square)$ のタイプは 3! 通りの並べ方があるので

$$3 + 12 \cdot \frac{3!}{2!} + 7 \cdot 3! = 81 \text{ 【通り】}$$

さらに、3 回目の試行が行われないようなものについて

$(a_1, a_2, a_3) = (4, 6, \square), (5, 5, \square), (6, 4, \square), (5, 6, \square)$

$(6, 5, \square), (6, 6, \square)$

という $6 \times 6 = 36$ 【通り】があるため

$$\frac{81 + 36}{6^3} = \frac{117}{216}$$

が余事象の確率となり、これを 1 から引くことで

$$p_3 = 1 - \frac{117}{216} = \frac{11}{24} \text{ と得ることもできます。}$$